

只見町議会議長 大塚 純一郎 様

広報広聴常任委員会
委員長 小沼 信孝

只見町議会報告会報告書

只見町議会基本条例に基づき実施した議会報告会について、下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時及び場所

令和2年11月29日(日)

午前10時00分～午前11時30分 只見振興センター

午後1時00分～午後2時30分 朝日振興センター

午後3時30分～午後5時00分 明和振興センター

2. 出席議員 大塚純一郎議長、佐藤孝義副議長、三瓶良一議員、齋藤邦夫議員、酒井右一議員、中野大徳議員、山岸国夫議員、鈴木好行議員、小沼信孝議員、酒井正吉郎議員、矢沢明伸議員、菅家忠議員

3. 総括

11月29日(日)、3地区振興センターで実施した。議会から、「若者定住、子育てしやすいまちづくり」、「新しい議会に望むこと」の2テーマを掲げ、町民の皆様が普段思っている事、行政、議会に望むことなど多くの意見や提案を広聴する事ができた。

3会場とも今すぐ取り組まなくてはならない課題、町の存続が危惧されるような問題や意見が多く出されたことを受け、議会として、意見を整理し各委員会等で今後の対応等について協議する必要があると考える。

なお、配布資料、各地区からの意見は以下のとおり。

(1) 本会議における議決報告／令和2年4月から令和2年10月会議迄

(2) 各常任委員会の活動報告／3常任委員会

(3) 特別委員会の活動報告／決算特別委員会

(4) 各地区意見

①只見振興センター(参加者24名)

■移住者・人材確保などについて

- ・UIターン者の情報窓口をつくり情報発信をすれば、行政だけでなく町内企業でも情報共有ができ、企業も人材確保や支援ができるのではないか。
- ・町内どの分野も人手不足、人材確保が急務である。行政と民間の人材確保には連携が大切だ。
- ・町内の建設業業界では、従業員の高齢化により除雪を含め、災害等があった際に町や住民を守っていけるか非常に厳しい。町はその辺をもっと認識し対策を考える時だ。

■空き家対策・定住対策について

- ・空き家になる前に、登録して頂く工夫も必要ではないか。

- ・町内の空き家は沢山あるが、空き家バンクに登録されている軒数が少ない。
- ・只見町への移住のお得感のPRや改修補助の充実がもっと必要ではないのか。コロナ禍の中、都会からわが町への移住のチャンスではないか。

■公共施設利用等について

- ・只見の森キャンプ場の住民利用の促進やブナセンターの活用をもっと工夫するべきだ。
- ・若者定住住宅について、3年間の入居条件では次へのステップが大変だ。要件の変更はできないのか。

■診療所体制について

- ・朝日診療所に専門医療はできないものか。特に小児科、産婦人科など。医師体制を2人体制でなく拡充して欲しい。

②朝日振興センター（参加者17名）

■若者定住、子育てしやすいまちづくりについて

- ・若者定住には雇用の場が問題だ。町全体の経済をもっと伸ばすためには所得の向上が大切だ。
- ・2年前にUターンしてきて思うことは、子ども・高齢者には教育・福祉といった面では手厚いが、若者に対する支援もして頂きたい。例えば、スタート支援・婚活イベントなど。
- ・最近、当地区で2軒の新築があり、若者が移り住んでいる。区としてうれしいことだ。区の方にも、空き家バンク等で入居・移住された方の情報を出して頂きたい。
- ・Uターンしてきて20年経つが、だんだん町の元気が無くなってきていると感じる。町として定住に対する施策を教えてください。
- ・乳幼児に対する医師の確保をお願いしたい。
- ・人口減少で商店も少なくなり、買い物に不自由している。

■教育問題について

- ・中学2年の子どもがいて同級生が41名いる。只見高校の定員が40名となり、山村教育留学生も含めると、町内の子どもがあふれてしまうのではないか。
- ・小学校統合の話が出ているが、どのように進んでいるのか。

■その他

- ・求人募集は出ているが、非正規職員が多い。
- ・介護施設に努めているが、人材確保が課題だ。
- ・何年も前からの中心市街地活性化政策に進展はあったのか。道の駅の建設も含めて、全体構想が見えない。
- ・撤去できる空き家の処分を速やかに。
- ・叶津番所の今後の活用は。
- ・田畑の耕作放棄地が増えているので、対策してほしい。

③明和振興センター（参加者30名）

■新しい議会に望むことについて

- ・税条例の中で、小さく困っている集落に対し、固定資産税の減免規定を考えてほしい。
- ・国は地方には非常に厳しい。税率の問題を突きつけるがどうなのか。
- ・町長提案に対して、議会として提案できる条例を作れないか。

- ・行政と町民との双方向のオンライン化の推進、町内のデジタル化を図ってほしい。

■若者定住、子育てしやすいまちづくりについて

- ・地域の生活支援事業、買い物支援車の要請はどこからあったのか。
- ・診療所の入院患者制限はいつ改善されるのか。
- ・W i - F i 環境をもっと良くしてほしい。

■その他

- ・叶津番所の売買価格は適正であったのか。
- ・特定空き家解体工事費は高すぎるのではないか。
- ・年々厳しくなる町の財政だが、道の駅、J R 只見線の運行継続には相
当な財政負担が予想されるのではないか。

以上